

女性研究者の活躍を願う

Wish to Find More Women in Science and Engineering

川端和明 Kazuaki KAWABATA

高分子学会男女共同参画委員会委員長から、何か投稿してもらえないか、という趣旨のお電話を突然いただいた。面識はないのですが、このような突撃精神をお持ちの方が委員長であるなら、本学会の男女共同参画もさぞかし促進されるであろうと思った次第です。この4月に着任した文部科学省基盤政策課は、科学技術振興機構の所管課であるのみならず、女性研究者支援など科学技術系人材の育成や科学技術の理解増進、さらには理数教育などを担当しています。内閣府勤務時代には第3期科学技術基本計画策定を担当する参事官でしたので、女性研究者の採用目標の設定（自然科学系全体で25%、理学系20%、工学系15%、農学系30%、保健系30%）などにも携わらせていただき、その後、東京農工大学に転じてからは大学現場で女性研究者支援の実態などを学ばせていただきました。そしてこのたび、女性研究者支援を担当する課に着任したということで、お声が掛かったのかもしれませんが。

さて、知の大競争時代にあって日本の科学技術の将来や国際競争力の維持・強化を考えますと女性研究者をはじめ多様多才な個人々が意欲と能力を発揮できる環境を形成していくことが不可欠です。少子高齢化社会に突入したわが国にあっては、優秀な研究者の確保は年齢や性別にとらわれることなくわが国総掛かりで対応すべき課題です。とくに、女性研究者が活躍できる環境を形成することは科学技術の振興という観点のみならず男女共同参画社会の実現という観点からも重要です。しかしながら、わが国の女性研究者数は約11万人と研究者全体の12.4%にとどまっております。依然として欧州諸国に比べて著しく低くなっています。また、大学教員における女性研究者の割合は、理・工・農学系でとくに少なく、助教、講師、准教授、教授と職階が上がっていくにつれて割合が下がっていることは皆

様もご存知のとおりです。これは女性研究者の能力が劣っているからでしょうか。そうではなく男女共同参画社会がまだ到来していないために過ぎません（“過ぎません”という軽い言い方では“済みません”が）。なお、前述の採用目標の25%は博士課程後期の女性割合を踏まえて設定されており、男女学生の能力に差がないことを前提としています。去る4月には政府の男女共同参画推進本部において「女性の参画加速プログラム」が決定されましたが、その中で活躍が期待されながら女性の参画が進んでいない分野として、医師、公務員、そして研究者が挙げられています。文科省では平成18年度から「女性研究者支援モデル育成事業」を開始し、これまで33機関が採択されています。これらの大学等では女性研究者支援室などの推進組織が設けられ、産休・育児中の女性研究者への研究支援員の配置、保育施設の整備などが進んでおります。また、そもそも女子の理系学生自体が少ないため、「女子中高生の理系進路選択支援事業」というあからさまな名称の事業も実施しております。理系離れが叫ばれるなかで女性研究者を増やしていくことはそう容易なことではありませんし、そもそも政府の助成金でやれることには限界もあります。これらの事業に参画いただいている本学会員もいらっしゃると思いますが、多くの皆様にご協力をいただければ幸いです。本学会においては、男女共同参画委員会のご活躍もあって、正会員中の女性会員比率が約5%から約7%へと急速に伸びたということで、慶賀に堪えません。ただ、学生会員の女性比率が20%あることを思えば、まだまだ潜在的な女性会員はいらっしゃるはずですし、女性学生会員ももっと増えて欲しいものです。有能な女性研究者の参入により学問の発展も加速するものと信じます。高分子学会の女性研究者におかれては、後輩女性たちが陸続とこの分野に飛び込んでくるよう、素晴らしいロールモデルとなっていただけることを期待しております。これからは女性研究者主体の運動というより男性の意識改革と行動が重要になってくると思います。

私も皆様と一緒にこの課題に取り組んでいけることをうれしく思っています。



文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課長
(100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2)